

校長室より

第79号

「天空高き」



平成28年1月12日

明けましておめでとう—実り豊かな年—

2016年、平成28年を迎え、今日で10日
余り経ちましたが、あらためて、明けまして
おめでとうございます。

今年の干支（えと）は未（ひつじ）から申（さ
る）になります。申という漢字を「さる」に当て
ていますが、本来の読みは「シン」です。申は
「呻」（しん:「うめく」の意味）で、「草木が伸び
きって果実が成熟して固まって行く状態」を表して
います。ですから、申年は「実が成る年」というこ
とになるでしょうか。



岩国市 城山山頂

「1年の計は元旦にあり」と言いますが、皆さんは今年の抱負、目標を立てました
か。皆さん一人ひとりが抱負や目標を達成するためには、毎日の努力の積み重ねが大
切です。抱負や目標を達成するためには、1年の最初である元旦から努力をすること
が大事です。「1年の計は元旦にあり」という本来の意味は、自分が立てた抱負や目標
を達成するために、「1年のはじまりである元旦から努力しなさい」ということだそう
です。

今週の土・日曜日はいよいよセンター試験です。その準備として、3年生の23名
の生徒たちが、徳山大学で最後の模試「センターファイナル」を元旦と2日に受けま
した。まさに、1年のはじまりである元旦から多くの仲間と一生懸命に受験に向けて
努力しています。本当に、素晴らしいことです。

イチロー選手は「小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただひと
つの道」と言っています。これから本格的に受験に向かう3年生諸君の健闘を心より
祈っています。自分を信じ、仲間を信じ、先生を信じて、最後の最後まで小さな努力
を積み重ねてください。1、2年生の皆さんも、どんなことでもいいので、1つ目標
を立て、毎日の小さな努力を積み重ね、2016年を実り豊かな年にしていきましょう。

私は体力も記憶力もとても皆さんにはかないません。一日が一生の気持ちで、今や
っていることを一生懸命、自分らしく忠実にやっていきたいと思います。

可能性、決めているのは君自身、一歩歩めばグンと広がる。

望月 優 （株）アメディア社長

極限の行に挑む 「一瞬、一瞬を生き切る」

1200 年前、伝教大師最澄が天台宗を開いた比叡山延暦寺。ここに代々伝承されてきた 2 つの難行があります。

動の行といわれる千日回峰行。そして静の行といわれる十二年籠山行です。

命を落とす者もいるといわれるこの極限の行を満行した宮本祖豊師と光永圓道師が、行に臨む思いと、行を通じて見出した人間の奇跡的な力について語り合われた、対談の一部を掲載しました。

宮本 躓（つまず）くのは嫌だという人もいます。ところが躓くことは決して悪いことでなくて、前に進むとするとするから躓いて転ぶわけです。端から前に進むと思わなかったら転ばないわけですよ。前に向かうというその姿勢が実は大切で、そういう姿勢を貫いていればこそ、切羽（せっぱ）詰まった時に奇跡としか思われないうような力が引き出されるのではないのでしょうか。だからこそ、辛い時でもあと一歩、あと半歩と前に進み続ける。そういう姿勢がやっぱり必要なんだろうと思います

光永 私もお参りに来られる方々に、悩んでいるだけでは物事は前に進みませんよ。失敗してもいいからとにかく行動を起こしましょうと申し上げるんです。仮に失敗したからといって、命に関わることは滅多にないと思うんです。行というのは文字どおり行うことであって、実践して初めて得るものがある。時には悩むことも必要ですが、動くのをやめた時点で物事も止まってしまいます。だから物事を起こすには最初の一歩がやっぱり大事。行動を起こしたら勝ちですよと申し上げるんです。

宮本 千日回峰行にしても十二年籠山行にしても、決してその独特の体験そのものに意味があるわけじゃなくて、逆にその一瞬一瞬をどのように生きるかというが一番



延暦寺 根本中堂（国宝）

千日回峰行：比叡山の峰や谷を 7 年かけて計 1 千日巡り、礼拝する厳しい修行。3 年目までは、1 日に 30 キロの行程を毎年 100 日間行じ、4 年目と 5 年目は、同じく 30 キロをそれぞれ 200 日。ここまでの 700 日を満じて、9 日間の断食・断水・不眠・不臥の“堂入り”に入り、不動真言を唱えつづける。6 年目は、これまでの行程に京都の赤山禅院への往復が加わり、1 日約 60 キロの行程を 100 日。7 年目は 200 日を巡る。



大切です。これは行に限らずどんな人の人生にも言えることだと思います。動物も人間も生きているということでは同じですけれども、人間にしかできないことは何かと言えば、単に生きるのではなく、一瞬一瞬を生き切ること。各々の目標に向かって全力で向かっていくこと。行とは、そのことの大切さを改めて感じさせてもらうものだろうと思います。

十二年籠山行 比叡山で最も難しい修行。開祖伝教大師最澄上人の住まいである浄土院にただひたすら宗祖に仕えきる荒行。最澄上人のご遺体がある浄土院にてあたかもそこに伝教大師がおられるように毎日、食事をお供えして掃除、読経 礼拝などのお勤めをする。これをたった一人山に籠もって、12年間修行する。朝は3時30分起床、4時から1時間お勤め、5時に伝教大師への献膳、これが終わると、阿弥陀如来への供養、「法華経」「仁王経」「金光経」そして、600巻に及ぶ「大般若波羅蜜多経」。10時にお昼の献膳があり、その後は境内の掃除。その掃除を15時まで、16時から夕方のお勤め、17時に門を閉めて21時まで夜のお勤め、寝るのは22時。そんなお勤めを一人で12年間 その間たとえ親が亡くなろうとも病気になろうとも、一度大師にお仕えしたら満行するか、死ぬか、どちらかの修行。戦後、この荒修行に満行者となった人は僅か7人。その6人目の人が、宮本祖豊師。7人目が、光永圓道師。

What is this ?—角度を変えてみる—

右の3つの写真は何かわかりますか。

同じものを見ても、見る角度が違えば、全く違ったものに見えます。本当は同じものを見ているのに、見方が違うだけで、自分はちゃんと見ているつもりでも、角度や視点、経験など、いろいろなもので簡単に左右されてしまう、ということが我々の日常生活においても多々あります。

いま世界のいろんなところで、争いが絶えません。争いになったときには、とにかく相手を負かそうと躍起になったり、自分は絶対に正しいということを主張します。しかし、一歩引いて、どうして意見が違ふんだろうかと考えたり、何か根本的な原点はないだろうかと探ってみる姿勢があれば、良い解決策が見つかるかもしれません。解決策が見つからなくても、お互いに歩み寄れる方法が見つかるかもしれません。

ひとのものの見方や心のあり方というのは、その人の文化や風土、生活習慣などによって異なります。自分から見て正しいと思えることも、立場の違う人から見れば間違っているかもしれません。

皆さんには、多様で柔軟な見方や考え方を身に付けてもらいたいと思います。また、これから社会に出てみると、正解のない問題に直面するときがあります。その時には、自分な



下から



上から



横から



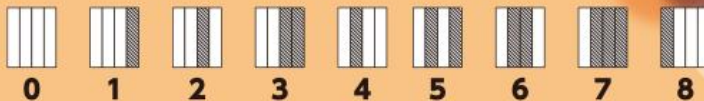
斜め上から

りの答えを出すしかありません。それがこれからの社会です。

□頭を○くする

お正月気分で少しなまった頭を鍛えましょう。次の問題は 2015 年、大妻中野中学校の算数の入試問題です。チャレンジしてください。(出典 日能研)

同じ大きさの4つの長方形が並んでいます。ある規則にしたがってこれに斜線を引き、整数を表すことにします。次の図はこの規則にしたがって、0から8までの整数を表したものです。このとき、後の問いに答えなさい。



問 このしくみを利用したのがバーコードです。オリジナルのバーコードを作ってみることにしました。学年、クラス、出席番号の順に間をあけずに表すとします。

例えば、学年を表すのに2個の長方形、クラスを表すのに2個の長方形、出席番号を表すのに4個の長方形を使うと、2年3組9番の生徒のバーコードは、合計8個の長方形を使って右の図のようになります。

しかし、この方法では、4年を表すことや、出席番号16番を表すことなどができません。では、1年から6年まで、クラスが1組から6組まで、出席番号が1番から40番までの学校でこのバーコードを使うとき、長方形の数は何個必要ですか。この問題は、考え方も書きなさい。



2015年
中学入試問題
大妻中野中学校
からの出題



解答 12 個
解説 問題の冒頭にある、0～8を表している 4つの長方形は、右から順にそれぞれ、1、2、4、8 を表していると考えます。何かの数を表すときは、これら 1、2、4、8 の数の中からいくつかを選び、その和が表したい数になるような組み合わせを作ります。そして、組み合わせる数の長方形に斜線をつけて数を表します。

二十四節気 小寒（小寒）1月5日頃（2016年は1月6日）。

冬至 から数えて 15 日目頃、冬至 と大寒の間。寒さが加わる頃という意味で、いわゆる「寒の入り」のこと。小寒から節分（立春の前日）までの 30 日間を「寒の内」といい、寒風と降雪の時節で、寒さが厳しくなる頃。これから冬本番を迎えます。寒稽古や寒中水泳が行われるのは、この「寒」の時季です。この日から、寒中見舞いを出し始めます。※立春が「寒の明け」になります。